会員の声

次の 20 年への会員の志を集める為に

鈴木 隆之（中国四国支部の会員）

現在、20年委員会による本会の次の20年を見据えての活動が進められています。昨年12月の中部支部会では委員長の嶺重先生自身による改革案の説明がありましたが、会員一人一人と対談し想いを受け止めようとする気構えには頭が下がる限りです。

ただ、更に広く会員の意見を集めるためにここに提議させていただきます。次の20年を見据えての改革は今まで本会の公式の場に顔を見せなかった会員を含め、全会員の総意で行われるべきものかと私は思う次第です。2003年に定期刊行物に関するアンケート調査が実施された様ですが、今再び全会員に対して意識調査を行い一人一人が会に何を望んでいるか問うてみたら如何でしょうか。

私は昨年の天文教育11月号でアルバイトを雇用し、労働力を補填し疲弊した会の運営を立て直し、会の安定と更なる発展を目指す方向性に反対する声明を示しましたが、誤解もある様なので補足します。「会員一人一人の天文教育/天文普及の同志との繋がりを保とう/強めようとする想いから湧き出す善意の労働力が会の基盤であることは変えられない」という改革の基本姿勢について論じたのみで、「金で人を雇う事は如何なる場合でも反対」と主張している訳ではありません。既に幾つかの部署や事業にはアルバイトが導入されておりますし、事務局近辺に在住している人にしか出来ない仕事もあるかと思われます。それについては会員の有志では賄えぬ点があることは認めます。論点はどこまでをアルバイトに任せて良いのかという点でしょう。

また、20年委員会が現在進めている会長を補佐する役職を設け、執行部体制を設立する旨の制度改革に関してはそれを支持する所存です。

只、引き続き会員の有志を基盤に据えるのであれば運営側が会員一人一人がどのような形での交流を望んでいるか・どのような活動をこの会で実現させたいか想いを受け止めようとする姿勢は必然的に求められるものです。

しかし、色々ハードルがあるのも事実です。単純計算で600人分の往復郵便費と紙・封筒で15万円は掛かり、膨大な労力が掛かります。定期刊行物を含めた会のサービス、催しについて等は選択式で問うて、その結果を数字で表す事が出来るものですが、今回一番大切になる会の目的やあり方については選択式のアンケートと言う形で問える内容ではなくそれを統計データにすることも困難です。7年前の調査では多種多様で十人十色の意見が集まりました。選挙の投票率が低い状態が続いていますが、もし現在、会員の多数が「会の運営は有識者に任せるべき、我々が意見を言う立場ではない」と認識しているのであれば、アンケート調査は無駄な労力を使う結果に終わります。

実現には、色々と懸念事項や障壁となる点が色々あるものかと思われますが、単に意見をくださいと呼び掛けるに留まらず、会の運営に携わる立場の方は(手段はともかく)極力多くの会員に次の 20 年に対する想いを受け止めようと、そして、一般の会員の方々もその誠意に応え、自らの意思を表明しようと、試みることが肝要だと思われます。

鈴木 隆之